

総括講評

丸亀市男女共同参画審議会
会 長 佐藤 友光子

現行プラン上の評価は、今回で3回目となります。今年度は、令和元年度末から現在も続く新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な取り組みが中止や変更を余儀なくされました。男女共同参画の視点で言えば、女性が多くを占める非正規労働者の解雇や学校の休校対応のため母たちに負担がのしかかるなど、固定的性別役割分担意識の弊害が顕著に出た年であったとも言えます。

さて、今回は令和2年9月3日から10月29日まで各部会1回ずつ担当課へのヒアリング等を行いました。審議会各委員からは、昨年度実績に対し、毎年少しずつではあるが、男女共同参画の視点を持って各種事業に取り組まれていると評価の声があった一方で、コロナ禍を福に転じさせる好機と捉えていただきたいという意味も込めて、ヒアリング時にお伺いした今年度の取り組み姿勢にも言及したいとの声もありました。

本総括講評では、今回のコロナ禍対応を一過性に終わらせることなく、これまでなかなか変化させられなかったワーク・ライフ・バランス推進への意識変革と取り組みの定着化にまい進してほしいと述べさせていただきます。推進本部をはじめ、担当課におかれましては、令和3年度が意識変革・取組定着の転換点だったと後々言われるよう、各種事業に男女共同参画の視点をもってこれまで以上に取り組まれることを強く望みます。

記

1. 関係課等との連携について

すべての課に対し、プランの各目標にある「目指すまちの姿」を実現させるための解決策を単独で行うことなく連携しながら取り組む姿勢・意識の強化を今まで以上に望みます。 今回のコロナ禍は有事の状況だと言えます。そのとき何をしたのかが、後々大きな差となることを理解したうえで、コロナの影響があってもこういう企画・立案・調整をしたという積極性を望みます。

2. 主体的な意識強化について

プランに記載している施策の内容に合わせて、事業計画を立案し、実施されていますが、自分の課のことだけではなく、他の市町の取り組みを勉強し、リーダーの資質向上、情報収集に努めていってほしいと思います。そして、「目指すまちの姿」実現のため、目標はできるだけ具体的に、評価できる書きぶりを意識的にされることを希望します。

令和3年1月22日